

柏原市所在遺跡発掘調査概報

1998年3月

柏原市教育委員会

柏原市所在遺跡発掘調査概報（柏原市文化財概報1997-II）

正誤表

	誤り	正
1	目次 図-7 (鳥坂寺、河内国分寺)	(鳥坂寺、河内国府)
2	図版目次 図版-7上 鳥坂寺・河内国分寺・船橋鹿寺	鳥坂寺・河内国府・船橋鹿寺
3	P-4 本文3行目 25~30が河内国分寺	25は河内国府、26~30が河内国分寺
4	P-9 図-7 河内国分寺	河内国府
5	P-11 本文3行目 一枚づくり	桶巻づくり
6	図版-7上 鳥坂寺・河内国分寺・船橋鹿寺	鳥坂寺・河内国府・船橋鹿寺

はしがき

柏原市は、河内平野の南東部に位置し、市域のおよそ3分の2が山地や丘陵で占め、その間を縫って石川や大和川が流れる府下でも有数の風光明媚な木々の緑が多い町です。

近年、開発優先よりも環境保全や自然保護の気運も高まり、生活住環境や学校施設、植栽などを整備するための公共事業を市内各所で実施しています。その事業を実施する場所は遺跡の内外にありますが、遺跡内については発掘や立会調査など必要な措置を執っています。今回報告する内容は、住宅地内の道路部分に下水道管を埋設する事業や学校施設内に設置する防火水槽などがあります。下水道事業は、主要な国道や府道内に敷設する幹線の工事を大阪府が受け持ち、市内の府道や市道内に敷設する沿線の工事は柏原市が担当して施工し、年次計画を基に地域毎の事業を順次行っています。事業期間には運行や騒音など通常の生活に制限される面も多いのですが、下水管は、幅狭く地表より深い場所への埋管するものであり、遺跡深度のある遺跡では遺物が出土する場合も多くあります。この事業は、市民生活により利便な環境を整備するためのものと文化財調査も含まれていますのでご理解とご協力をお願い致します。また、今回市民の方からの寄贈して頂いた遺物は、市内遺跡の性格や特徴を示すものとして、古墳時代の埴輪や8世紀前後の古代寺院の瓦を主要に報告するものです。

平成10年3月

柏原市教育委員会

教育長 舟橋清光

例　　言

1. 本書は、平成8年度、柏原市教育委員会が公共事業として実施した埋蔵文化財の発掘調査や立会調査、柏原市内遺跡群等の松下氏寄贈遺物を実測整理した概要報告書である。
2. 発掘調査、立会調査は、柏原市教育委員会社会教育課文化係北野　重を担当者として実施したものである。
3. 調査の実施にあたり、下記の諸氏の参加、協力があった。

橋谷和夫	柳谷好子	長西茂樹	安村俊史	石田成年	寺川　欽
百合藤厚子	西島伸彦	今西芳文	谷川洋史	阪口文子	榎原美智子
藤川富久子	尾野綱江	富田都子	浅野正子	乃一敏恵	有江マスミ
村口ゆき子	松本和子	山本允子	橋口紀子		
4. 本書の編集は、北野が行い、執筆は概要を北野、遺物を阪口が担当した。
5. 本書には、柏原市片山町在住の松下氏が昭和35年頃から玉手山丘陵付近を中心として採集された遺物を報告するものである。

目 次

第1章 調査に至る経過.....	1
第2章 調査の概要.....	3
第3章 松下氏寄贈遺物.....	4

挿 図 目 次

図-1 柏原市位置図.....	1
図-2 調査区位置図.....	2
図-3 松下氏寄贈遺物その1（片山庵寺）.....	5
図-4 松下氏寄贈遺物その2（片山庵寺）.....	6
図-5 松下氏寄贈遺物その3（片山庵寺）.....	7
図-6 松下氏寄贈遺物その4（鳥坂寺）.....	8
図-7 松下氏寄贈遺物その5（鳥坂寺、河内国分寺）.....	9
図-8 松下氏寄贈遺物その6（河内国分寺、安堂家原寺、玉手庵寺）.....	10
図-9 松下氏寄贈遺物その7（船橋庵寺）.....	11
図-10 松下氏寄贈遺物その8（老原五条宮、衣縫庵寺、大和高取城、大阪城）.....	12
図-11 松下氏寄贈遺物その9（出土地不明）.....	13
図-12 松下氏寄贈遺物その10（玉手山遺跡）.....	14
図-13 松下氏寄贈遺物その11（玉手山遺跡）.....	15

図 版 目 次

図版-1 平野遺跡・円明遺跡立会調査	
図版-2 本郷遺跡発掘調査 西側から 北側から	
図版-3 本郷遺跡発掘調査 西側から 北側から	
図版-4 大県遺跡試掘調査 南側から 北側から	
図版-5 松下氏寄贈遺物その1 片山庵寺 片山庵寺	
図版-6 松下氏寄贈遺物その2 片山庵寺 鳥坂寺	
図版-7 松下氏寄贈遺物その3 鳥坂寺・河内国分寺・船橋庵寺 河内国分寺・安堂家原寺・玉手庵寺	
図版-8 松下氏寄贈遺物その4 老原五条宮・衣縫庵寺・大和高取城・大阪城 その他	

第1章 調査に至る経過

柏原市は、大阪府の東南部に位置し、大阪府と奈良県の間に連なる生駒山地の麓にあたり、広ぼう東西方向6.60km、南北方向6.63kmを測る大阪府下30市中第19番目の面積(24.77km²)を擁する小都市である。行政区画は、奈良県と境に接する内陸部にあり、奈良県側の市町は、生駒郡三郷町、同郡王子町、葛城郡に属する香芝市の3市町があり、大阪府側の市は、八尾市、藤井寺市、羽曳野市の3市が隣接して四周を囲んでいる。

交通は、近鉄大阪線、近鉄道明寺線、JR大和路線、国道25、165、170線、西名阪自動車が丘陵部を縫うように大阪と奈良を繋いでいる。このように幾つもの種類の交通手段が行き交う市内には、古くからの地理的、歴史的な背景が積み重ねられている。

この地域は、旧石器時代から弥生時代にかけての石器原石サヌカイト、前期古墳の堅穴式石室築造に使用する安山岩や石棺材に使用する凝灰岩などが産出地であることから、古代からその交易と搬出が長期間継続して繰り返されてきた結果として、交通の基礎的な道筋が作られてきた場所である。このような歴史的な背景がこの地域の発展に大きく寄与したことが考えられ、奈良県下の水量を集めて大阪に流れ込む大和川と金剛山脈の水量を束ねる石川の二大河川が合流して大阪平野を貫流していることも水運の拠点として重要な要素を持ち、これらの石材の産出地としての役割とそれに伴う物資や文化の交流も共に運ばれてきたのである。

柏原市内の遺跡群は、二大河川に三つの地区に分割される。一つ目は、大和川と石川の西側に広がる羽曳野丘陵の端部に喩まわれた遺跡

群で、志紀郡、古市郡を含む河内地域の中心的な役割を持ち全体に低い丘陵に加え広大な平野部が石川や大和川流域に広がっている。二つ目は、大和川以東の狭い平野部と広い丘陵部がある地区で、在地性の強い集落と超大型の後期群集墳がある。三つ目は、大和川より以南で、石川より以東の上述した石材の産出する地区で、前期古墳が密集し、河内国分寺など政治的重要拠点である事が伺れる地区である。



図-1 柏原市位置図

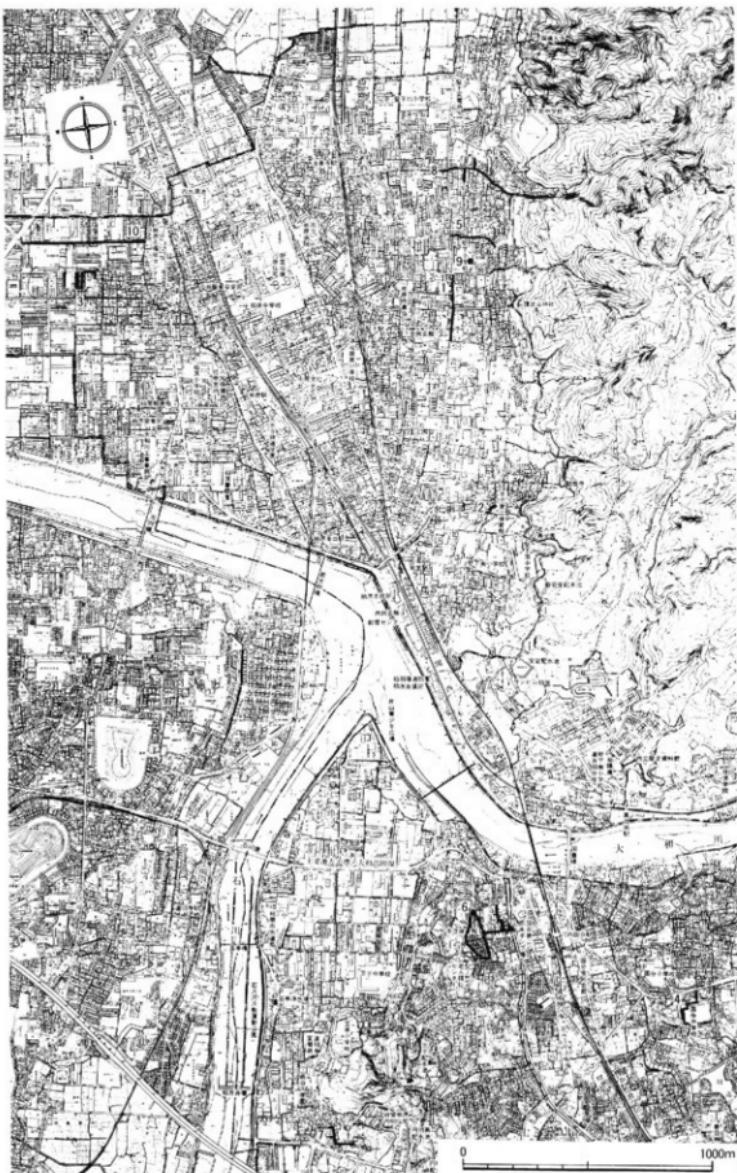


図-2 調査区位置図

第2章 調査の概要

平成9年度に実施した公共事業は、下記の表-1に示したように発掘調査と立会調査がある。調査の内容は、工事に先立つ発掘調査と工事の実施に同時平行して遺物の採集や土層の観察等を行う立会調査があり、何れの調査も遺跡の環境復元に貴重な資料を得る重要な機会です。下水道関連の調査は、主に道路内に下水管を埋設するため、道路を上層から掘削する開削工法の工事と開削ではなく人孔部分だけを地表から掘削して一定の深さで繋ぐ推進工法、シールド工法とも云う工事があります。前者は、掘削深度が浅い場合や道路幅が狭い工事などに用いられており、工事期間中掘削時に立会調査を実施するものです。後者は、規模が大きな工事や交通に大きな支障を来す事や深度が深い場合など諸条件があり、この場合の調査は人孔部分に限定されます。この推進工法は、人孔部分の発掘調査になります。

今回報告する松下氏寄贈遺物は、氏がこの地域が次第に住宅化した時期から多くの文化財が破壊と散逸が繰り返されたことに対して小さな土器片から瓦や埴輪などを採集したものである。既に削平を受けた地区的貴重な生証人として重要な遺物である。その主要な遺物は、大阪府下、奈良県下の瓦を若干含んでいるが、市内の古代寺院の瓦を中心として、玉手山丘陵の古代寺院、古墳の埴輪などがある。

No	調査内容	遺 踪 名	所 在 地	平成 年月日
1	立会調査	大槻・大槻南遺跡	平野2丁目地先～大槻3丁目地内	8.3.5～8.6.21
2	立会調査	太平寺庵寺	太平寺2丁目190番先	8.3.8～8.3.22
3	立会調査	本郷遺跡	本郷5丁目	8.3.13～9.3.7
4	立会調査	田辺遺跡	国分本町7丁目1	8.5.21～8.7.19
5	立会調査	平野遺跡	平野2丁目地内	8.10.25～9.1.31
6	立会調査	玉手山遺跡	片山町1旭ヶ丘1丁目地内	8.10.28～9.2.14
7	立会調査	玉手山遺跡	円明町11～15 18番地内	8.12.9～9.2.21
8	立会調査	大槻遺跡	平野2丁目地内	9.3.17～9.6.27
9	発掘調査	大槻遺跡	平野2丁目1	9.7.22～9.7.22
10	発掘調査	本郷遺跡	本郷3丁目、5丁目地内	10.2.25～10.3.10

表-1 調査の一覧表

第3章 松下氏寄贈遺物

松下由太郎氏寄贈遺物の紹介をし、若干の説明を加えたい。

今回、採集され、寄贈された遺物は、遺物に注記された場所をもとに、1~17が片山庵寺、18~24が高井田庵寺、25~30が河内国分寺、31は安堂家原寺、32・33は玉手山庵寺、34・35は船橋庵寺、36~38は老原五条宮、39・40は衣錠庵寺、41は大和高取城、42が大坂城と記され、43~58においては不明であった。

1~14は平瓦である。1は、凹面に縦糸（8本/cm）、横糸（10本/cm）の布目がみられ、凸面は、不定方向に刻線を入れている。2は、凹面に縦糸（10本/cm）、横糸（10本/cm）の布目と、凸面に綾杉文叩きを行う。3は、凹面に布目がみられ、凸面は平行線文の叩き。4は、凹面に縦糸（9本/cm）、横糸（8本/cm）の布目と、凸面に平行線文と綾杉文の組み合わせと思われる叩きを行う。5は、凹面を糸切り後、布目がのこり、凸面は菱形を斜線で分けた叩きを行い、後にスリ消している。6は、凹面に縦糸（8本/cm）、横糸（9本/cm）の布目と模骨痕がみられ、凸面を綾形文と1本の軸線から斜線がのびる叩きの組み合わせ。7は、凹面を縦糸（10本/cm）、横糸（11本/cm）の布目、凸面に有軸綾形文の叩きを行う。8は、凹面に糸切りを行い、凸面は有軸綾杉文の叩き。9は、凹面に縦糸（9本/cm）、横糸（8本/cm）の布目がみられ、凸面は、縦と斜め方向の組み合わせの平行線文の叩きと思われる。10は、凹面に布目、凸面に山形の叩きの組み合わせを行う。11は、凹面を粗い縦糸（4本/cm）、横糸（3.5本/cm）の布目と、一部に平行線文がみられる。12は、凹面の布目をスリ消し、凸面は粗い繩目叩きを行う。13は、凹面の一部分に布目がみられ、凸面は繩目叩き。14は、凹面に縦糸（13本/cm）、横糸（13本/cm）の布目、凸面は繩目叩きがみられる。側面調整はヘラ削りで、一枚作りである。1~4・6・9・11のうちで側面がのこっているものはいずれも、ヘラ切り及びヘラ削りを行い桶巻づくりであろう。

15は、連珠文軒平瓦で片山庵寺薬師寺堂と記されている。連珠は推定14個連なると思われる。顎部分はヘラ削り、平瓦凹面は縦糸（6本/cm）、横糸（8本/cm）の布目、凸面に繩目叩きを行い、一部をナデている。

16・17も薬師寺堂と記されている、埠の破片である。厚みは、5.2から5.8cmを測る。

18は、重弁連草文軒丸瓦の小片である。

19~24は平瓦である。19は、凹面に縦糸（7本/cm）、横糸（9本/cm）の布目がみられ、凸面は平行線文と1本の軸線から斜線がのびるものとの組み合わせの叩きを行う。20は、凹面に縦糸（7本/cm）、横糸（9本/cm）の布目、凸面を粗雑な有軸綾形文と思われる叩きを行う。21は、凹面を縦糸（8本/cm）、横糸（9本/cm）の布目と模骨痕がみられ、凸面を2種類の平行線文の組み合わせの叩きを行う。22は、凹面に縦糸（6本/cm）、横糸（7本/cm）の布目、凸面に平行線文の間に山形文の叩きを行う。23は、凹面を縦糸（8本/cm）、横糸（7本/cm）の布目、凸面に1本の軸から斜線がのびる叩きと思われる。24は、凹面に縦糸（10本/cm）、横糸（10本/cm）の布目と模骨痕がみられ、凸面は、平行線文と綾杉文の組み合わせの叩きを行う。19・22の側面調整はヘラ削りで、

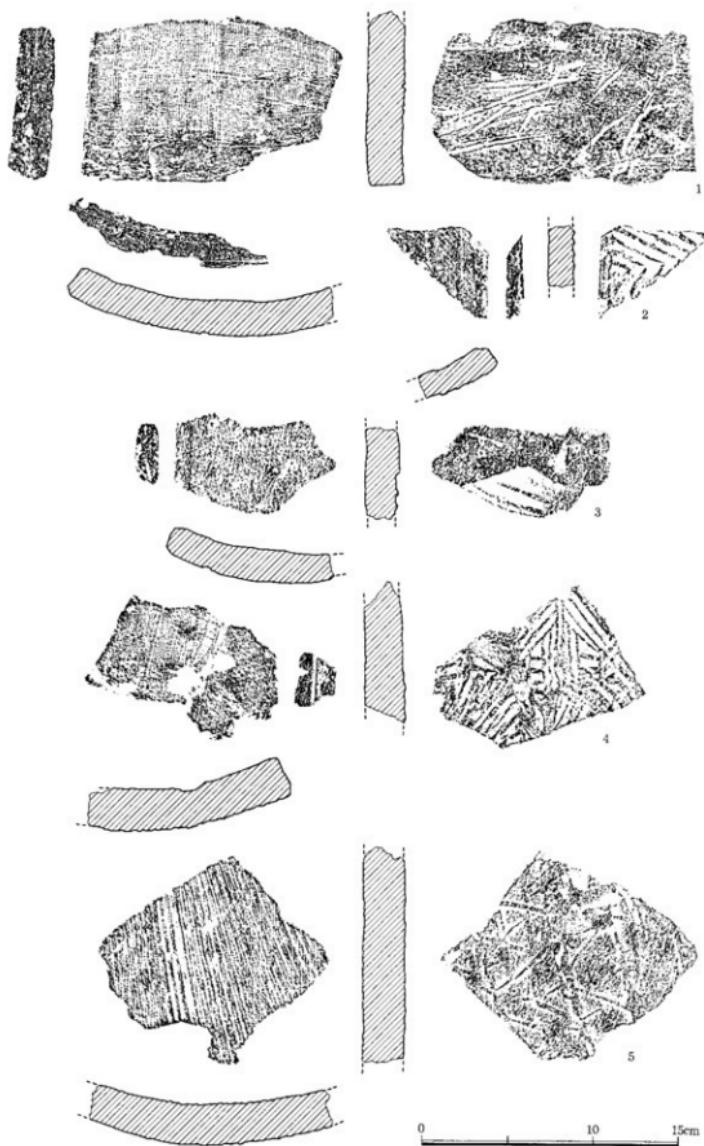


図-3 松下氏寄贈遺物その1 (片山庵寺)

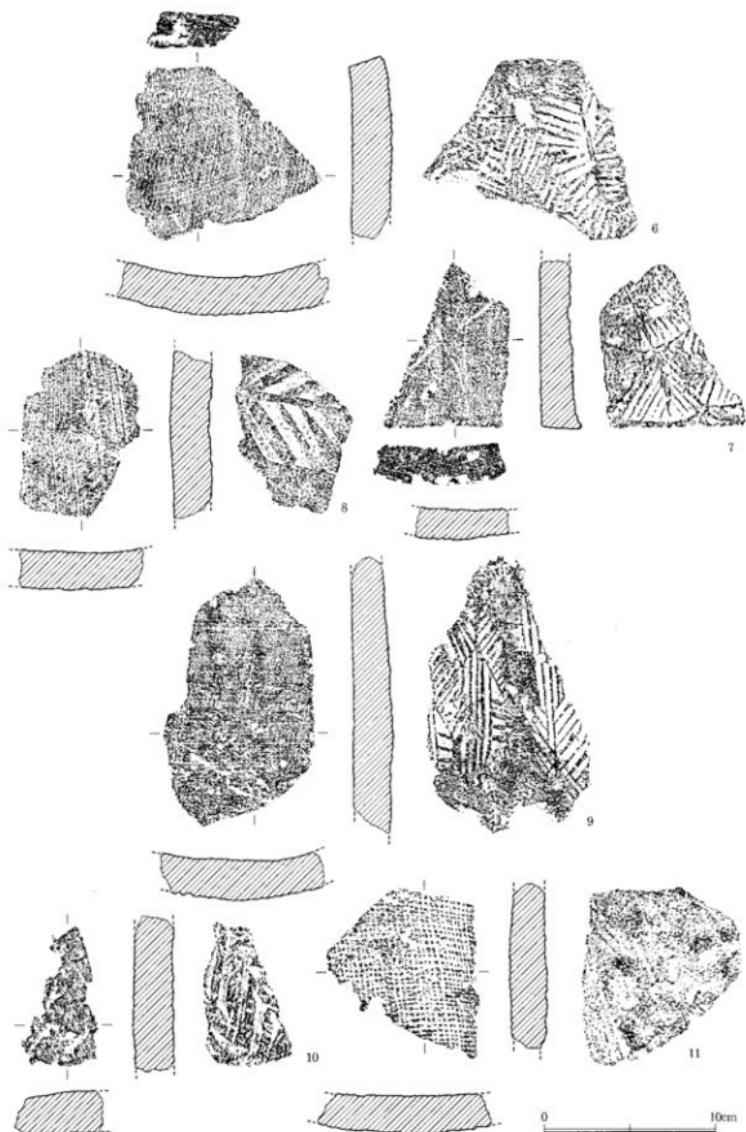


図-4 松下氏寄贈遺物その2（片山庵寺）

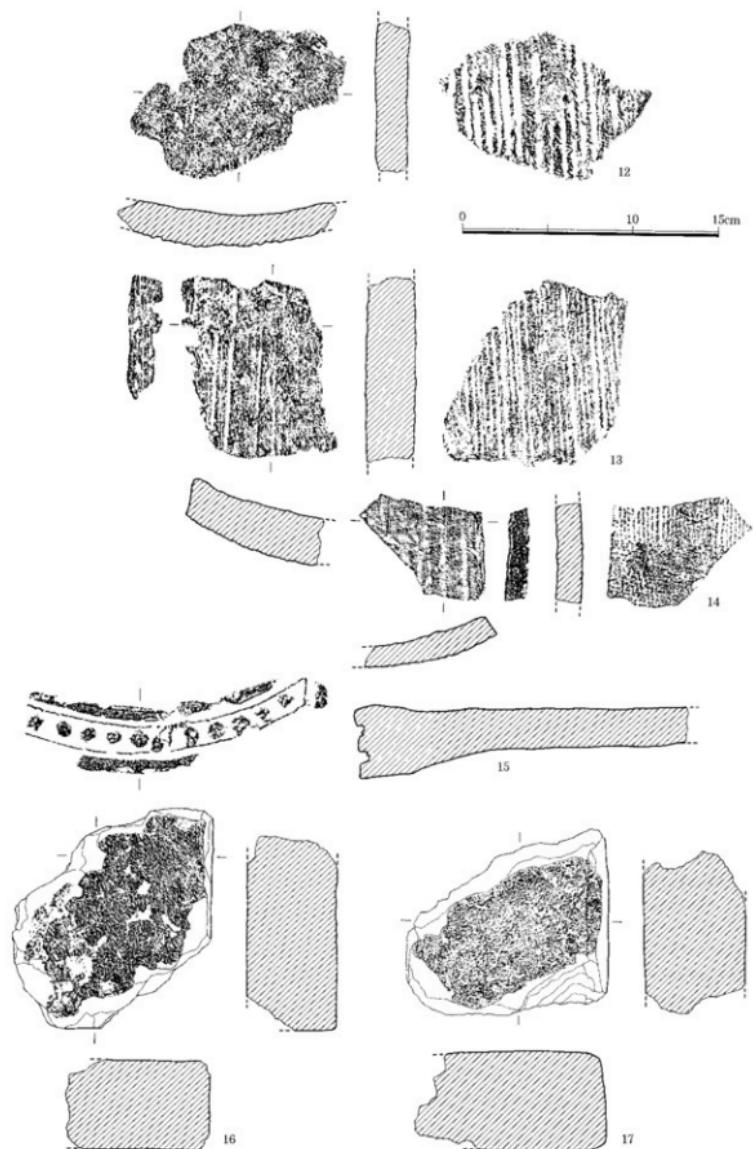


図-5 松下氏寄贈遺物その3 (片山庵寺)

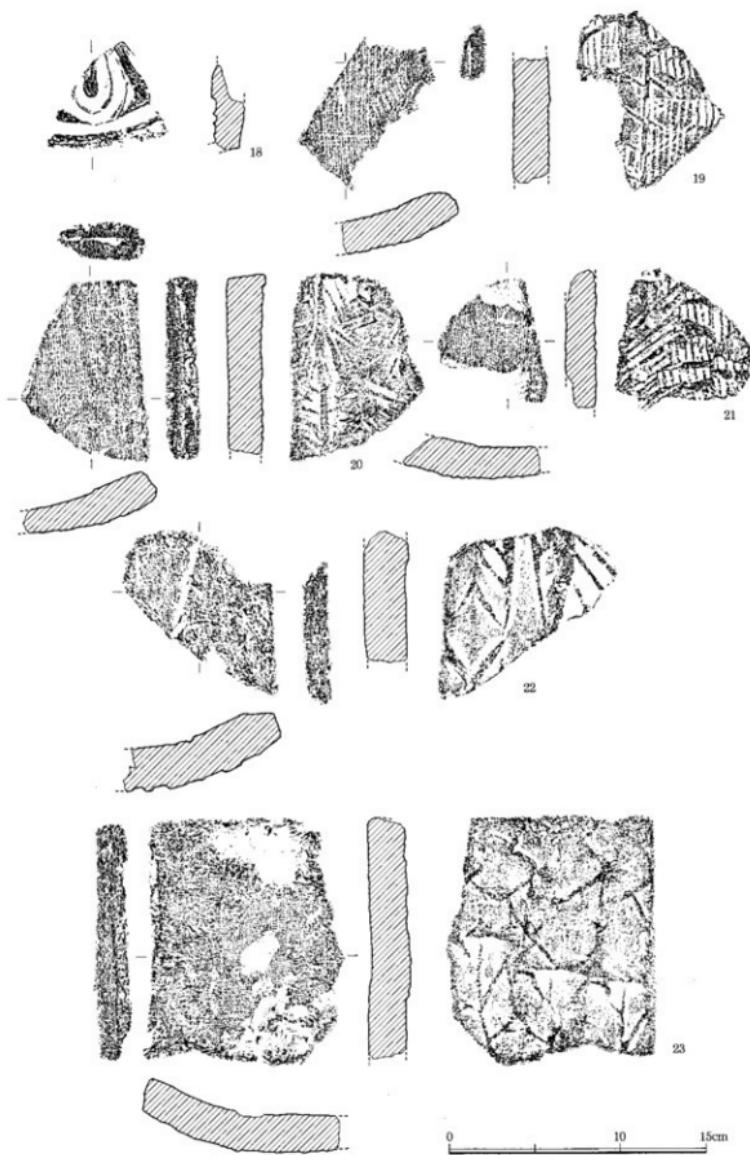
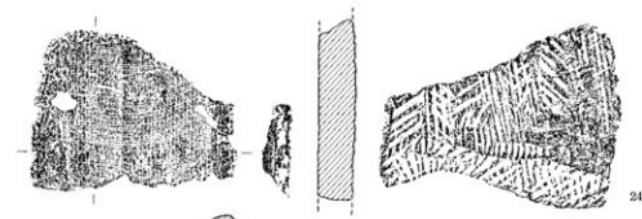
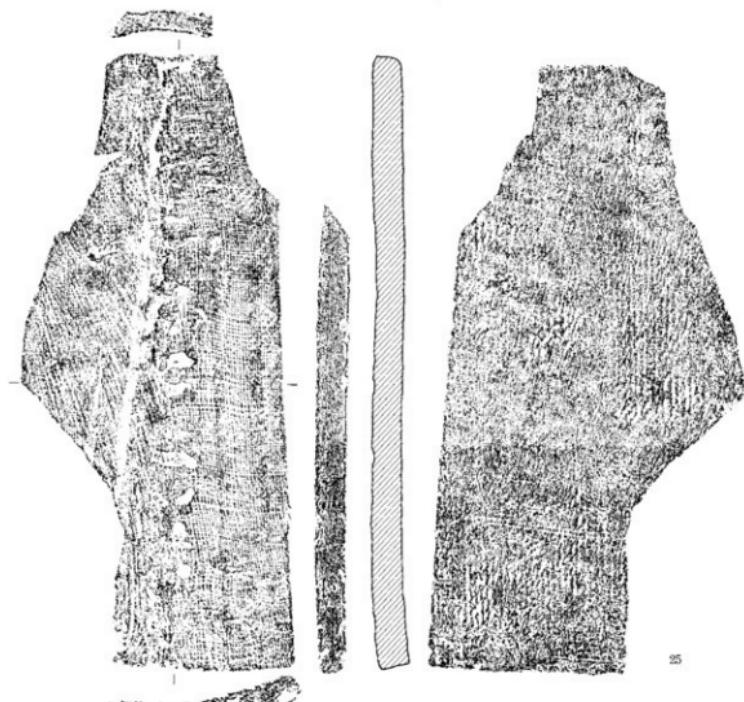


図-6 松下氏寄贈遺物その4 (鳥坂寺)



24



25



図-7 松下氏寄贈遺物その5（鳥坂寺、河内国分寺）

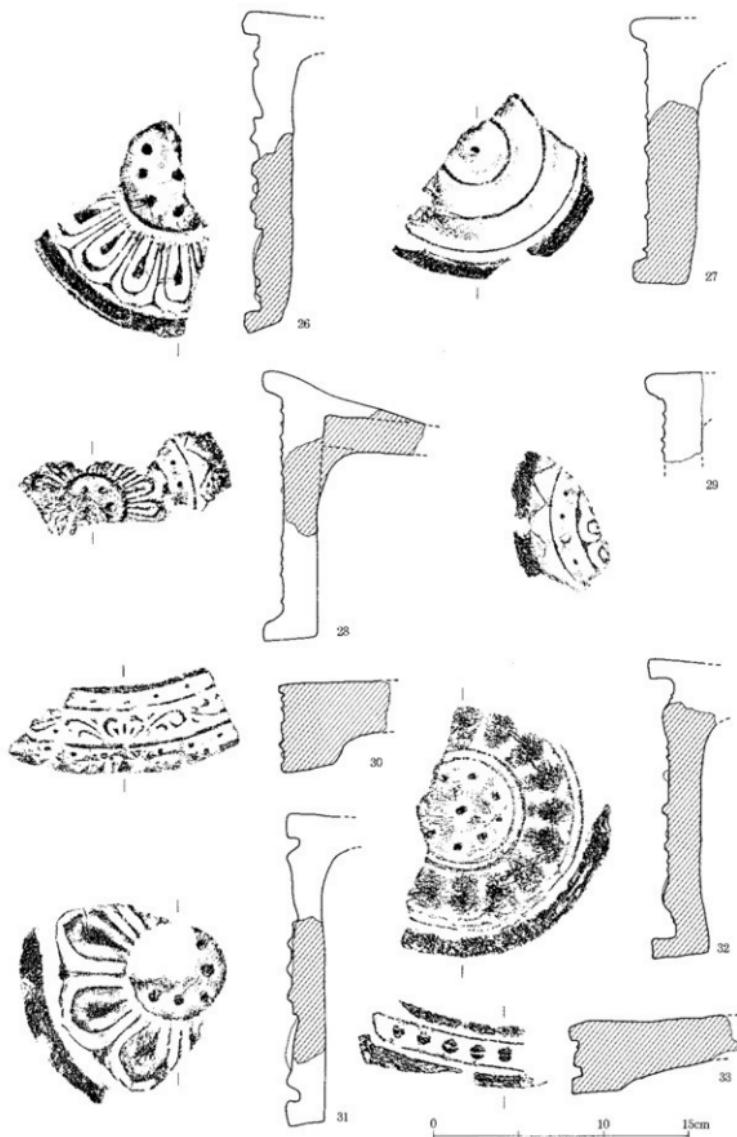


図-8 松下氏寄贈遺物その6（河内国分寺、安堂家原寺、玉手山廃寺）

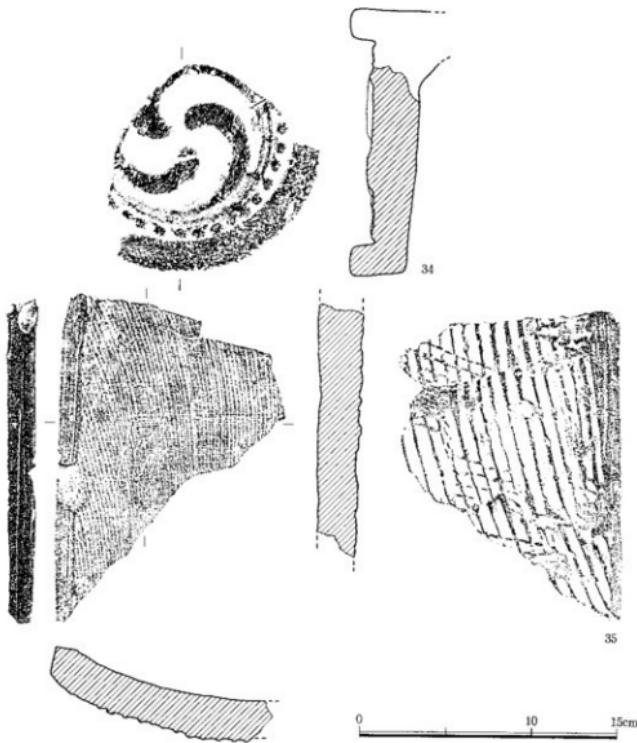


図-9 松下氏寄贈遺物その7（船橋庵寺）

20・23・24は、ヘラ切り後ヘラ削りを行う。20・24は割り痕もみられる。いずれも桶巻づくりである。

25は、一枚づくりの平瓦である。凹面に糸切り痕と縦糸（7本/cm）、横糸（8本/cm）の布目がみられ、凸面は繩目叩きの後スリ消している。側面調整はヘラ削り。

26～29は軒丸瓦である。26は、重弁蓮華文軒丸瓦で中房に1+8の蓮子を配し、そのまわりに16弁の重弁を配している。瓦当裏面にナデ調整を行う。27は、重圓文軒丸瓦。瓦当裏面はヘラ削り後ナデ調整。28・29は、複弁蓮華文軒丸瓦で、28は塔跡から採集されている。内縁と外縁とに分かれ、内縁には珠文、外縁には線鋸歯文が配されている。

30は、均整唐草文軒平瓦である。中央部分のみの破片で、頸は中段頸でヘラ削りを行う。

31は、重弁蓮華文軒丸瓦である。中房の中に方形に1+8の蓮子とそのまわりには8弁の重弁を

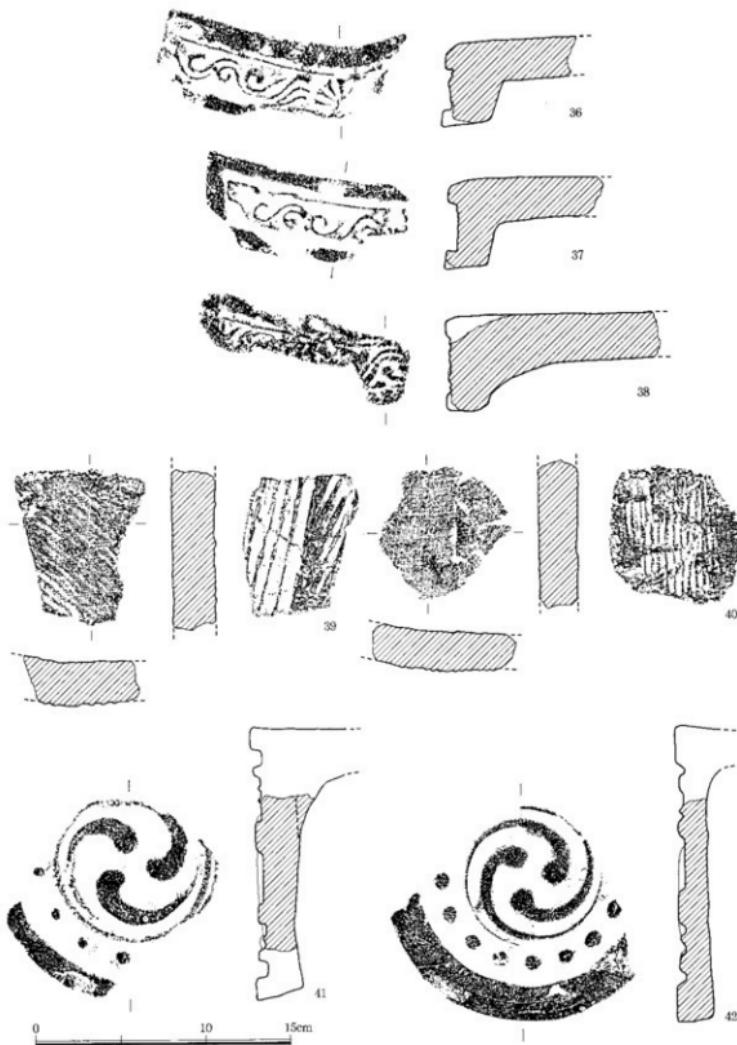


図-10 松下氏寄贈遺物その8（老原五条宮、衣縫庵寺、大和高取城、大阪城）

配していると思われる。瓦当裏面はナデ調整を行う。

32は、素弁蓮華文軒丸瓦である。中房に1+8の蓮子を配しそのまわりに16弁の素弁を配している。周縁の断面は直立で高い。

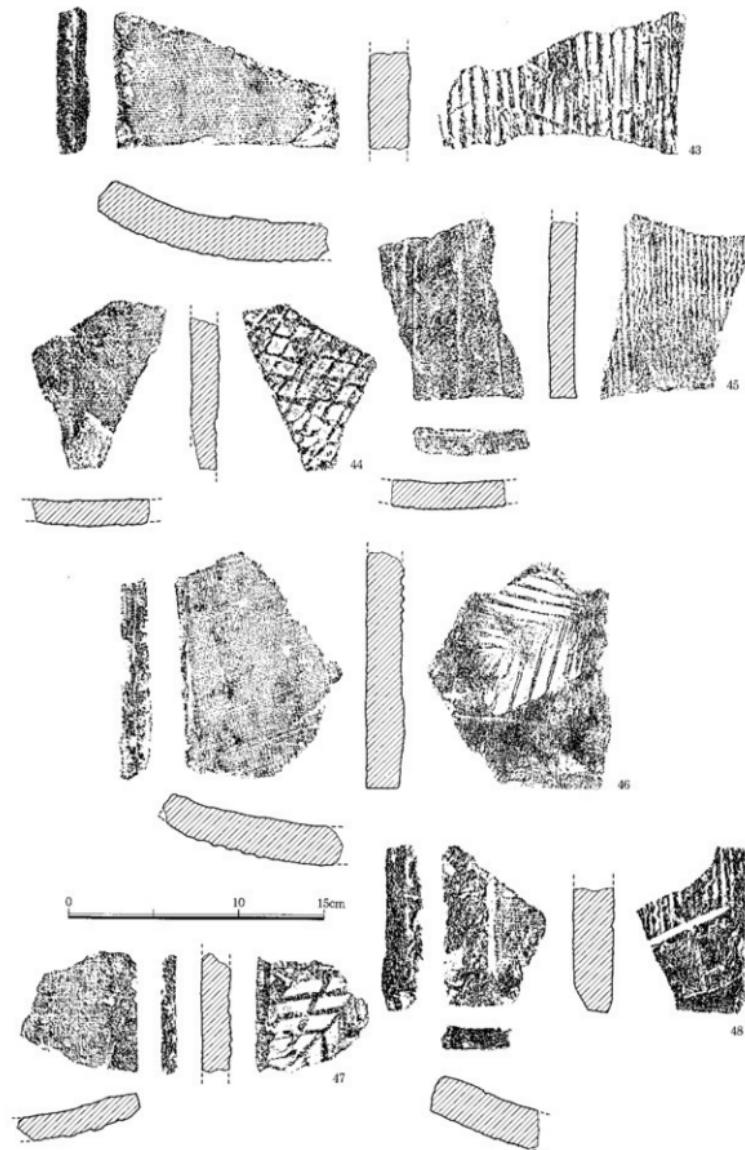


図-11 松下氏寄贈遺物その9（出土地不明）

33は、蓮珠文軒平瓦である。左半分のみの破片で、平瓦凹面部分に縦糸（6本/cm）、横糸（6本/cm）の布目がみられ、凸面はナデ調整を行う。

34は、巴文軒丸瓦である。巴文の頭部は扁平で尾部は長く、珠文は推定32個配されていると思われる。瓦当裏面はナデ調整。

35は、平瓦である。凹面に糸切り痕と縦糸（11本/cm）、横糸（10本/cm）がみられ、凸面は縦と横方向の平行線文叩きを行う。側面調整はヘラ削り。

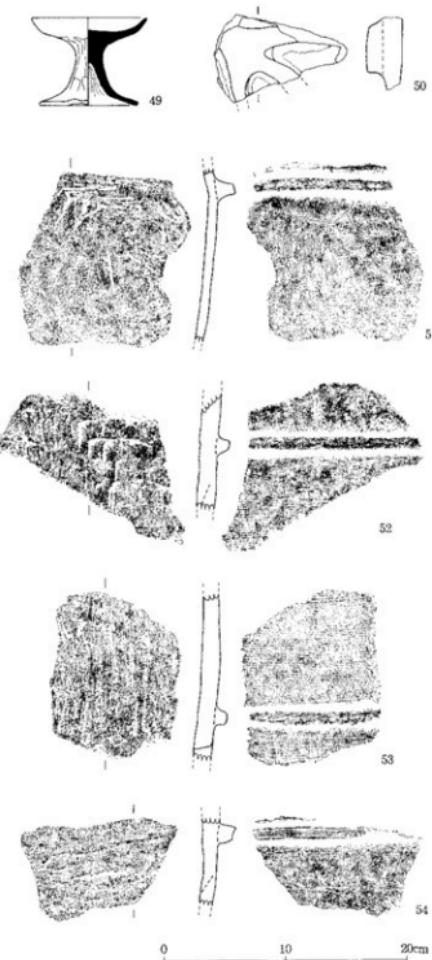


図-12 松下氏寄贈遺物その10（玉手山遺跡）

36~38は、均整唐草文軒平瓦である。いずれも左半分の破片で、頸は浅く、平瓦凹面部分はナデ調整を行う。

39・40は、平瓦である。

39は、凹面に糸切り痕及び縦糸（10本/cm）、横糸（8本/cm）の布目がみられ、凸面は平行線文叩きを行う。40は、凹面に横骨痕と縦糸（8本/cm）、横糸（9本/cm）の布目がみられ、凸面を山形に分けた平行線文叩きを行う。桶巻づくりである。

41は、巴文軒丸瓦である。巴文の頭部は扁平で尾部は細く長い。珠文は小さく推定16個を配していると思われる。瓦当裏面はナデ調整。

42も巴文軒丸瓦である。巴文のまわり推定20個の珠文を配して、瓦当裏面はナデ調整を行う。

43~48は、平瓦である。

43は、凹面に横骨痕と縦糸（11本/cm）、横糸（8

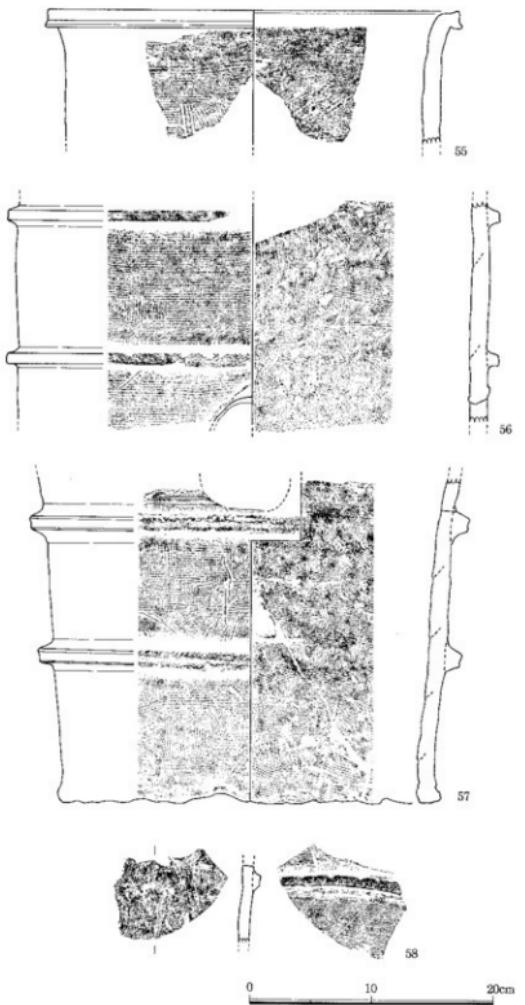


図-13 松下氏寄贈遺物その11（玉手山遺跡）

系（6本/cm）の布目がみられ、凸面は縦目叩きを行い、側面はヘラ削り、一枚づくりの瓦である。

49は、土師器高杯である。口径9.5cm、器高7.2cm、裾径7.9cmを測る。杯部口縁付近内外面共に横ナデ、脚部外面に指ナデ調整を行い、一部に工具痕と内面に絞り痕がみられる。

50は、陶棺の蓋の小片と思われる。厚み1.6cm、凹帯は貼り付けで、厚み1.3cmを測る。

51～58は、円筒埴輪である。51は、外面調整を細かい縦方向のハケ目（11本/cm）、内面も縦方向

本/cm）がみられ、凸面は平行線文叩きを行う。44は、凹面に模骨痕及び縦糸（8本/cm）、横糸（9本/cm）の布目がみられ、凸面は格子文叩きを行う。45は、凹面に模骨痕と縦糸（12本/cm）、横糸（1本/cm）の布目がみられ、全体をスリ消している。凸面（4本/cm）の縦目叩きを行う。46は、凹面に縦糸（9本/cm）、横糸（10本/cm）の布目、凹面を綾杉文叩きを行い、一部をスリ消している。47は、凹面は縦糸（9本/cm）、（横糸10本/cm）の布目がみられ、一部をスリ消す。凸面は軸線にそって1本の線が入る木の葉状文と思われる叩きを行う。いずれも側面にヘラ切りや割り痕、ヘラ削り調整がみられる。桶巻づくりである。48は、凹面に縦糸（6本/cm）、横

のハケ目（11本/cm）を施す。凸帯は1.5cmと高い。52は、外面調整を横方向のハケ目（5本/cm）、内面には板ナデ痕がみられる。53は、外面調整に横方向のハケ目（5本/cm）、内面調整に縦と横方向のハケ目を施した後、ナデ消している。円形の透孔を施す。54は、外面調整を横方向のハケ目の後、横ナデを施す。内面はナデ調整。55は、口径32.9cmを測る。口縁端部外面には凸帯状に粘土組を貼り付けて横ナデを施す。外面調整は縦方向のハケ目（6本/cm）後、横方向のハケ目（6本/cm）を施す。一部にヘラ記号がみられる。内面調整は不定方向のハケ目（6本/cm）後部分的にナデ消しを行う。56は、直径38.0cmを測り、外面調整を縦方向のち横方向のハケ目（5本/cm）を施し、内面は不定方向のハケ目（5本/cm）を施した後で一部ナデ消している。残存部分下段に粗雑な円形の透孔を施す。57は、56と同形態である。底径30.4cmを測る。外面調整は縦方向のハケ目を施した後、横方向のハケ目（6本/cm）を施す。内面調整は横方向のハケ目（6本/cm）。底部より3段目に円形の透孔を施している。58は、外面調整が断続的な横方向のハケ目（9本/cm）で縦ハケの後に施す。内面は粗雑なナデ。残存部分上段に円形の透孔がみられる。

図 版



平野遺跡立会調査



円明遺跡立会調査

図版二 大県遺跡九七一四次調査



西側から

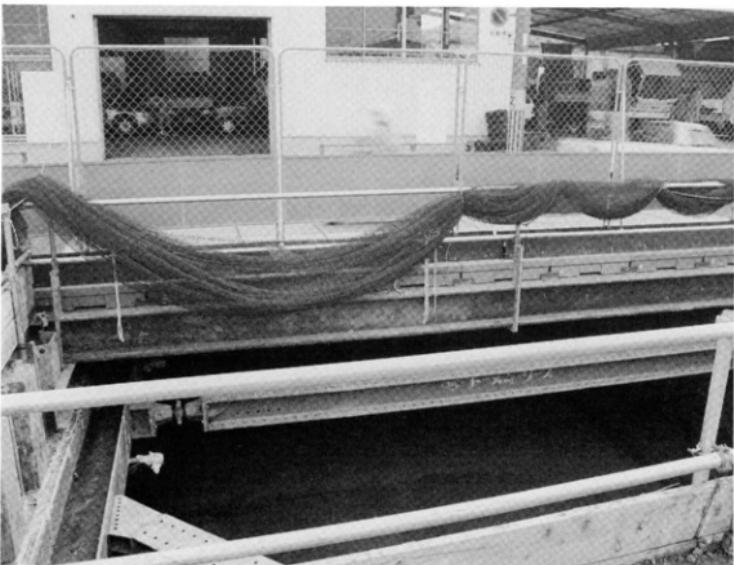


北側から

図版三 本郷遺跡九八一一次調査



西側から



北側から

図版四
本郷
遺跡九八一一次調査

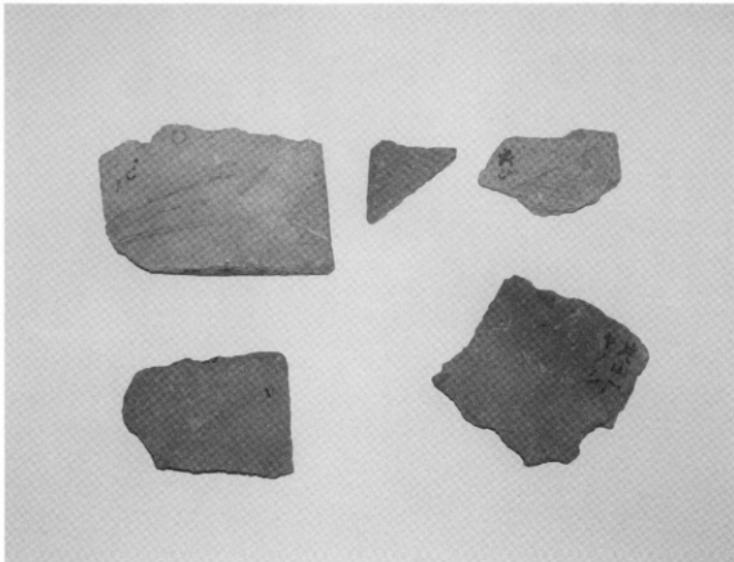


南側から

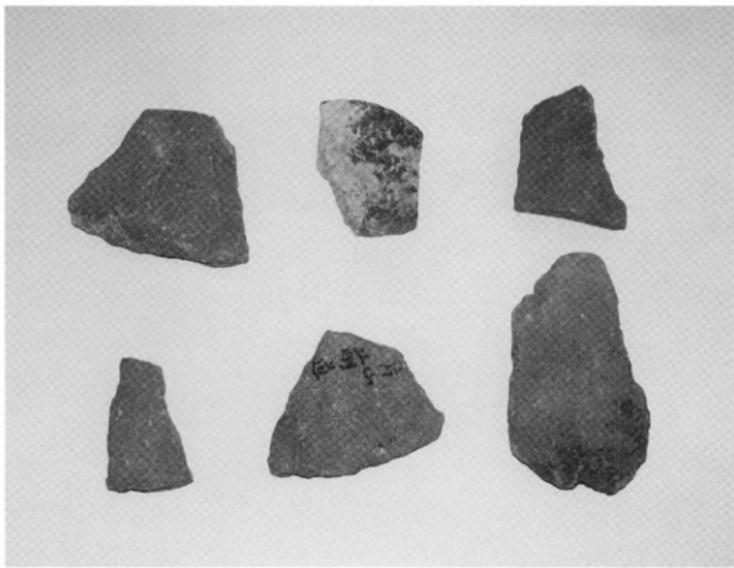


北側から

図版五
松下氏寄贈遺物

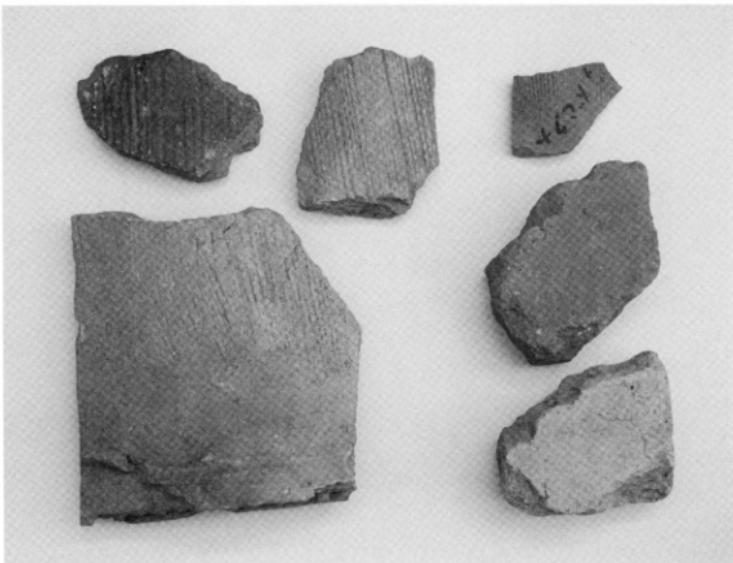


片山庵寺



片山庵寺

圖版六
松下氏寄贈遺物



片山庵寺



鳥坂寺

図版七 松下氏寄贈遺物



鳥坂寺・河内国分寺・船橋庵寺

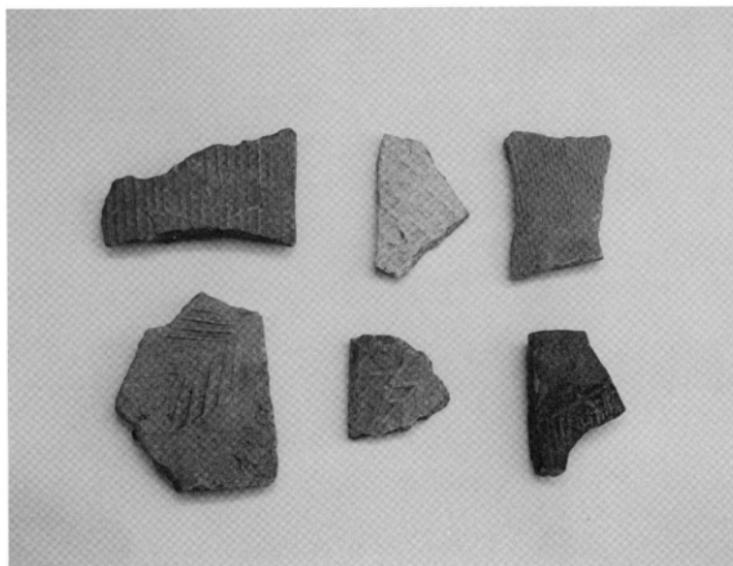


河内国分寺・安堂家原寺・玉手庵寺

図版八
松下氏寄贈遺物



老原五条宮・衣縫庵寺・大和高取城・大阪城



その他

報告書抄録

ふりがな	かしわらししょざいいせきはっくつちょうさがいほう					
書名	柏原市所在遺跡発掘調査概報					
副書名						
卷次						
シリーズ名	柏原市文化財概報					
シリーズ番号	1997-II					
編著者名	北野重					
編集機関	柏原市教育委員会					
所在地	〒582 大阪府柏原市安堂町1-43 TEL 0729-72-1501					
発行年月日	西暦 1998年3月31日					

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほんごういせき 本郷遺跡	かしわらしほんごう 柏原市本郷	27221		34度 35分 15秒	135度 37分 15秒		84	公共下水道埋 管に伴う

所取遺跡名	種別	主な時代	主な構造	主な遺物	特記事項
玉手山遺跡	古墳	古墳時代		埴輪	松下氏寄贈遺物
片山庵寺	寺院	白鳳時代		瓦	"
高井田庵寺	"	白鳳時代		瓦	"
河内国分寺	"	奈良		瓦	"
安堂庵寺	"	白鳳		瓦	"

柏原市所在遺跡発掘調査概報

1997年度

編集・発行 柏原市教育委員会

発行年月日 平成10年3月31日

印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

